

「体の具合がおかしい」と感じたら パースで  
はじめての  
病院

# 英語が苦手な方の強い味方 通訳の仕事

専門用語が英語で飛び交う医療の現場で、診察を受けにきた患者に通訳としてサービスを提供する、日本語医療センターの千綿真美さんにお話を伺いました。

千綿 真美さん



日本語医療センターのマネージャーとして、診察時の通訳やその他手続きのフォローをしてくれる。

**Q** 通訳としての仕事はどのような内容ですか？

**A** ただ単に“通訳”というより、「通訳を含めた“お世話係”」が仕事となります。ドクターとの診察中、そのやり取りを通訳するのがもちろん一番の仕事ですが、診察前後でも、他の検査機関や医療機関、保険会社、ホストファミリーや学校の先生などとのやり取りもしますし、海外旅行保険請求の事務手続き、保険がない場合にどのような医療費がかかり、どうしたらいいのかを調べてアドバイスしたり、医療に関する様々な問合せの答えを探し、いろいろな悩みの話を聞いてあげたり、と仕事は尽きません。

**Q** 診察の際に通訳として気を付けていらっしゃることは何でしょうか？

**A** どんなに英語が流暢でも、日本語をよく知らなければ通訳はできませんし、その逆も同じです。1つの英単語には様々な意味があり、その時々でシチュエーションで日本語訳も変わってきます。また、日本語も1つの言葉はいろいろな言い方ができます。例えば『排便』は、『お通じ』『うんち』『大便』。ただ単に『便』などとも言い換えられます。どの言葉が一番わかってもらえるのか、訳

して『え？』という反応がみられた場合に、さっと他の言葉に代えて理解してもらるように言えるスキルが大切だと思っています。また、ドクターあるいは患者さんが何を聞きたいのか、何を言いたいのかの確につかむことも、診察を円滑に進めるためにとっても大切です。日本語医療



慣れない土地で病気になるのは不安だが、日本語医療センターでは言葉の問題から各種手配までお手伝いしてくれる。

センターでの通訳は、ただ単に言葉の通訳をするだけとは違います。いつも患者さんに安心して帰ってもらうこと、「診てもらって良かった」と思ってもらえることに気を付けています。

**Q** 英語に不安があり通訳をお願いする場合、どのような対応をいただいているのでしょうか？

**A** 診察時の通訳はもちろん、診察終了後に他の検査機関や病院に行かなければならない場合はその予約や手配、その他に必要なことは全てオーガナイズしますし、その件でまたドクターなどに質問があればその橋渡しもします。

**Q** 最後に、読者の方にメッセージをお願いします。

**A** 日本とオーストラリアでは医療システムがかなり違うため、戸惑い、不安を抱く患者さんが多くいます。オーストラリアも日本もどちらの医療が進んでいる、遅れているなどということはありません。根本的な医療の考え方が元々違うことが多々ありますが、これもどちらが良いということではありません。病院受診の際に大切なことは、疑問があれば聞くこと、こうしてほしいという要望ははっきり伝えること、2回、3回の受診でドクターの診療に納得がいかない場合は、他のドクターに代えても結構です。「体の具合がおかしい」と感じたから、億ざず病院に行くようにしましょう。

© THE PERTH EXPRES